

港灣春闘

労使交渉 着地点見えず

日・月48時間スト実施

2019年港灣春闘は先月末の労使交渉決裂に伴う2回の日曜24時間を経て、14、15の両日、平日を含むストライキとしては22年ぶりとなる日曜・月曜48時間スト突入に至った。独占禁止法抵触の恐れがあるとして産別最低賃金の統一回答を拒む日本港運協会と港灣労組の対立は着地点が見えない。春闘の膠着・長期化は史上初のゴールデンウィーク(GW)10連休期間中のスト実施にもつながる可能性が出てきた。

港灣労組は14日始業時(午前8時30分)から全港・全職種を対象とする48時間の荷役阻止・就労拒否を開始。月曜日となる翌日も主要港のコンテナ船荷役・コンテナ回りの中央団体交渉開催の見通しは立っていない。交渉は決裂する中、次の中央団体交渉開催の

コンテナ船社

運航日程調整し対処

一部沖待ちも大きな混乱なし

港灣運輸労働組合同盟(港運同盟)の港運中央労組は17日にGW期間連続ストを日港協に通告する予定。通告に先立ち、16日午後には東京都内で会見を開き、今春闘の経緯や組合側の考え方を説明する。出口が見えない中、組合側が今後の春闘の展望をどう示すかが注目点となる。

14日から始まった全国国内港灣での48時間ストライキに対し、各コンテナ船社では運航船のスケジュール調整などで対処している。輸入が多い日中航路などの近海航路では週末到着船が多いため、今のところ大きな混乱は発生していないという。ただ、一部では沖待ちしている本船もある模様。各コンテナ船社ではスケジュール調整のほか、フリータイム(無料保管期間)カウントからストライキ日を除外するなど対応を行っている。

オーションネットワークエクスプレス(ONE)ではアジアサービス「JSM」について、14日横浜港出港予定だった本船のスケジュールを16日出港に変更。そのあとのスケジュールも調整する。これに伴って名古屋のCYカット日(コンテナヤード搬入締め切り日)を変更した。また北欧州向けサービス「FPU」についても、一部スケジュール変更などで対応する。

る。

マースクでは15日に予定していたアジア・南アフリカサービス「サファリ」本船の神戸積み貨物のCYカットについて、16日午後4時半へ延長した。

このほか、各コンテナ船社ともにストライキの対象となる港灣について、輸入のフリータイムカウントから4月15日を除外する対応をとっている。ただ、フリータイムが切れたあとのデマレージ(超過保管料)・ディテンション(返却延滞料)料金については除外されないという。